

札幌市環境プラザ運営協議会

平成27年度第1回実施概要

- 1 日時 平成27年5月29日（金）午後7時～午後9時
- 2 会場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室3・4
- 3 出席者
 - (1) 委員：内山委員、岡崎委員、鎌田委員、川見委員、今委員、小林委員、成田委員、宮森委員、田縁委員、岡本委員
 - (2) 札幌市：環境局環境計画課 環境教育担当係長、計画係担当
 - (3) 事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 市民参画課長、環境係長、指導員、サポートスタッフ
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 札幌市環境局のあいさつ
 - (3) 委員自己紹介
 - (4) 報告 ①平成26年度 事業報告
②平成27年度 事業計画
 - (5) 議事 「アンケート結果から見る『見学ツアー』受け入れのあり方」
 - (6) 閉会

5 報告・議事概要

<報告について>

・事業計画・実施する際の経緯や背景などを含めて情報提供していただきたい。

（事務局）平成25年度までの環境プラザが関わってきた領域は、学校以外の放課後の子どもたちや親子、イベントに来ているお客さんを対象にした事業であった。平成26年度からの指定管理の4年間については、学校との連携を重視しており、教師向けの研修や小学校への出前授業を実施してきた経緯がある。

・土曜日ワークショップはどのように実施しているのか？展示物の見学ツアーは一般の人でも参加できるのか？

（事務局）土曜日ワークショップは、第2・4土曜日の10時から15時まで開催しており、15～30分程度のプログラムを提供している。月ごとにテーマを決めており、スタッフと一緒に環境をテーマにしたアクティビティで楽しみながら環境問題に気付く活動をしている。見学ツアーは、学校・団体・家族などに事前に申し込んでいただき要望に合わせて展示解説・アクティビティなどを実施している。

・土曜日ワークショップに関して補足させてほしい。交通局の小学生対象事業で、4月から3月までの毎週土曜日に、地下鉄を使って市内の施設を回ってスタンプを集めるサタデーターリングをきっかけに、いくつかの施設では、来館する子どもたちを対象とした短いアクティビティを実施するようになった。環境プラザでも、主としてサタデーターリングでやってくる子ども達を対象に月替わりで短いプログラムを提供していた。サタデーターリングは、平成24年度で終了し、平成25年度からは、7月中旬から10月末までの土日祝日に開催するホリデーターリングに変更されたが、土曜日に提供していたプログラムは、土曜日ワークショップという形で継続されている。

・アウトリーチをすることによる負担や、デメリットはどのように考えているか？

(事務局) 今まで大きなイベントに出て、たくさんの方に知っていただく活動をしてきたので、次の段階は継続して環境に関する活動ができる場所をアウトリーチ先に考えている。例えば、児童会館やサタデースクールなど、継続的な活動につなげられるようなアウトリーチを工夫していきたい。

アウトリーチ先のイベントに出展しても、環境プラザ自体は開館しているので、両方に対応する必要が出てくる。資源をどこに集中させていくかを考えながら運営をすすめていきたい。

<事業計画について>

・平成 26 年度までに事業を実施してきて、一つの役割を終え取りやめて他のものに集中したり、時代の移り変わりを踏まえて 27 年度に新しく始めたなど、今までの評価の中から生まれた事業について伺いたい。

(事務局) 土曜日ワークショップは、以前は毎週実施していたが平成 26 年度は第 2・4 土曜日に開催している。平成 27 年度は隔月で「環境プラザであそぼ！」という他団体が実施するプログラムを入れ、回数を減らすことで事業のバランスをとろうと考えている。

新たに実施する大学生のサポーター制度については、長い目で見ると次の世代になる大学生と接点をつくることでさまざまな活動が広がると考えスタートさせたい。

・大学生のサポーター制度は、どのように大学生を募集するのか構想を伺いたい。

(事務局) 委員の皆さんにもご協力をお願いしたい。初めは 5~6 人からスタートさせて、年を重ねる上で広がってほしいと思っている。知り合いの先生を通じて、広報をしていきたい。

・どういう経緯があって大学生のサポーター制度を考えているのか？

(事務局) 環境プラザが所属している「環境中間支援会議・北海道」の勉強会で自分たちが対象としている層を割り出して、自分たちがどこにアプローチしているかという表を作成した。そこで、対象として抜けていたのが大学生の部分であった。そのため環境プラザが強みとしている小学生と大学生をつなぐ企画として大学生のサポーター制度と長期休みの自由研究のタネを企画した。

・教師対象研修について、対象が札幌市内の小学校教諭となっているが、札幌市内の先生しか参加できないのか？札幌周辺の小さな市町村では、教師対象研修がなかなかできないので、周辺の市教委とも連携をとるともう少し人を集めやすいのではないかと？道教委でも今年の冬休みの終わりに深川で教員向け研修を予定しているので、広報とも連携したい。

(事務局) 教師向け研修の大変な点は、先生方にご案内して参加していただくことであった。教育委員会の協力で校長会で紹介したが、知り合いの方が来るケースが多かった。対象について、近隣の市町村までオープンにすることは考えていなかったが、今後も情報交換をしながら、検討していきたい。

・私たちは札幌市の教育目標のもとに、札幌らしさの雪・環境・読書という 3 つを中心に子どもたちの学ぶ力の育成ということでやってきた。環境プラザを利用したり、協力してもらう利点は札幌らしさを取り入れた内容にあると思う。教師向け研修は、実施する学校の地域やそこにある素材を使ってなされると思うが、それを全道に広げるとすると非常に大変だと思う。手広く実施するのか、本当に札幌ということを考えて実施するのか難しいと思う。

・座長から役割を終えた事業はないかという話があったが、一つ一つの事業を見直して、頻度とか、環境プラザがどこまで手をかけていくかを調節していくとよいのではないかと。もしかすると、徐々に手を引くべきところが

あるかもしれない。

先日札幌市環境教育リーダーの育成研修に参加し、そのコンセプトも環境教育リーダーが専門性を発揮して各学校で子どもや教員に関わり、そこで教員も子どもも学ぶことがある。教員は転勤するので、いろいろな学校に種が蒔かれて、それを身に付けた教員がまた別の学校で環境教育の実践をしていく、といった一人ひとりの市民の中に環境に関する意識が育っていくというのが、環境プラザの一番のねらいではないかと思う。

<議事>

(事務局)「アンケート結果から見る『見学ツアー』のあり方」という題ではあるが、ハウススタジオの活用についてご意見をいただきたい。

・なぜ節電が必要なのか、その意味を最初にきちんと伝えてほしい。環境プラザの担当者が「エネルギーをたどれ」のような体験プログラムから、ハウススタジオにつなげていくことも可能と思う。市の温暖化対策推進計画(案)へのキッズコメントに、「地球温暖化という言葉を知っていても温暖化が進むとどうなるのかわからない人が多い。具体的な影響を示して、呼びかけることが大切」という意見があった。身近な問題として捉え、温暖化と節電行動がどう結びついていくのかが理解できるような内容がプログラムに盛り込まれるとよいと思う。

・いろいろなグッズをもっと使った方がよいと思う。窓際だったら保温フィルムがあったり、炊飯器がなくても保温容器で代用できるなど実物をどんどん見せていくとイメージが湧くと思う。説明する人も、綿入れと暖かいスリッパを履いて出てくるなど、付加的に見せていくとよいと思う。

また、なぜ節電が必要かなどについては、モニターの前に戻るのも大変なので場面ごとに紙芝居みたいなものを作ってもよいと思う。

また、環境学習施設のネットワークがあるので、インタープリター講座を環境プラザの職員が受講すると勉強になるのではないかと思う。

・リニューアル後初めて拝見したが、ハウススタジオで何をしたいのか率直なところがピンとこなかった。ハウススタジオの活用を通じて、子どもたちにどんなことを学んでほしいのか、子どもたちがどういう姿になってほしいのか、もう一度原点に戻り目的を確認したほうがよいと感じた。

見学ツアーのアンケートによると「環境学習に向いていると思った」が1番多かったようであるが、なぜそうしたのか等、さらに具体的なところも掘り下げて、学校側の目的やニーズを少し分析できるようなアンケートを実施し、その結果をハウススタジオの運営に反映させていってはどうか。

子どもたちにクイズをやらせようモニターがあったが、表示が「Q&A」では分かりにくい。子どもたちに直感的に分かるよう、「クイズにチャレンジしよう」とか、子どもがわかりやすい表現にした方がよい。

・環境プラザのホームページにエネルギーはどれくらいかというシミュレーションゲームがある。札幌市が作ったものと思うが、それをハウススタジオで使うなど、いろいろなリソースを上手に活用していくともっとよいと思う。今後、見学ツアーなどを考えるときに、全部自分たちで考えようとしなくて、協議会の委員や他の団体の意見やアドバイスを得ながらすすめるとよいと思う。

小さい子どもたちが、お風呂に入ったりトイレを使ったりと喜んで活動しているので、実際に使っている様子をよく見ながら、それを改善して活用して子どもたちの体験からプログラムを考えていくなど、長い目で考えるとよい。

・地球温暖化のパブリックコメントの授業の様子から、子どもたちは自分の生活や地球環境全体のことを真剣に考えていた。環境プラザのハウススタジオを子どもが真剣に学ぶ場として活用してほしいと思ったら、小学校5、6年生だったらもっと違う視点で意見も出てくると感じた。

小学校や中学校の教員は一つの単元があって、その中でねらいとか、子どもにどういう力をつけさせたいとか、どういうことを学びたいというテーマがあり、環境プラザが向いていると思って選んで来ると思う。ここを活用してもらうことを前提に考えると環境プラザに来ないと解決できないという流れの中の学習プランを皆さんと作ったり、小学校や中学校の現場でも使えそうなプランがあると、その中にハウススタジオが位置づくのではないかと思う。地下鉄に乗り時間をかけてここに学びに来るというだけの価値がないと、環境プラザに行こうとはなかなかならないと思う。学習プランの中に環境プラザがどうしても必要だというものがあるとよいと思う。

・子ども向けも大事だと思うが、展示を見ていると主婦が使いそうな台所なので、親子とかお母さんたちが見学ツアーで参加できる企画があるとよいと思う。年に1回とか月に1回でも、普通の人々が一般に見学ツアーに参加できますという企画があると、気軽に参加できると思う。

・全体のコンセプトとして見える化でエネルギーの消費がわかるので、電気でできることとか、風呂桶でできることを子どもたちの今の生活に置き換えて考え、どんなバリエーションがあるのか考えるプログラムがあれば良い。

学級単位で話をするには、非常に適した広さだと思う。すぐ見られるし、具体的な生活場面を想起して好きなことが言える。見学に来た学校の先生から意見を聞いてみると、いろいろなアイデアが出てくるのではないかと思う。

・アンケートをとりながら評価していくということはとても大切だと思うが、とる項目をどう立てていくか。今後は確認したいこと、知りたいこと、こう分析したいということを踏まえながらアンケートをさらに丁寧にとっていただきたいと思う。アンケートについても、この委員会だけではなく、いろいろな方のご意見をいただく、アイデアをいただくと充実するのではないかと思う。労力をかけたら、それに見合った分の結果が出てくるようにしていきたいと思うので、検討をお願いします。